

## 東北アジアの歴史記憶とツーリズム ——中国内における金佐鎮將軍記念事業会の活動をめぐって——

Historical Memories and Tourism in Northeast Asia  
—Activities of the General Kim Jwa-jin Memorial League in China—

佐々 充昭\*

### 要 旨

近年、韓国では、中国への観光旅行が盛んである。その中でも、中国吉林省内の延辺朝鮮族自治州を中心とする中国東北部を巡るツアーは人気の観光コースとなっている。朝鮮民族の聖山とされる白頭山（中国名は長白山）登頂や、ユネスコ世界文化遺産にも登録された高句麗古墳群、北朝鮮を間近に見られる中朝国境沿岸ツアーの他、最近では、日本の植民地時代に朝鮮の民族独立運動家たちが行った抗日独立運動の跡地が人気の観光スポットになっている。本研究では、中国朝鮮族の動向を考慮しながら、中韓間の政治的關係が韓国系民族独立運動関連史跡の観光地化にどのような影響を与えているのか考察する。

その際、本研究では特に青山里戦闘に関係する史跡地に焦点を当てる。青山里戦闘とは、1920年10月に青山里（現在の中国吉林省和龍県内）付近において朝鮮の抗日武装集団と日本軍との間で戦われた戦闘である。現在の韓国では、この戦闘を抗日独立運動史上最大の戦果を収めた戦いと評価し、「青山里大捷（大捷は大勝利という意味）」と称している。韓国の光復会は、青山里戦闘80周年を記念して、2001年その現場に「青山里抗日大捷記念碑」

\* 立命館大学文学部教授

を建立した。また、朝鮮独立軍の総司令官として青山里戦闘を指揮した金佐鎮将軍に関する史跡も、近年大々的に整備が進められている。この事業を推進している団体が金佐鎮将軍記念事業会である。同事業会は、かつて金佐鎮将軍が生活していた場所（中国黒龍江省）に、韓中友誼公園（2007年完成）や中韓友誼広場（2010年完成）という施設を建設した。また同事業会は、毎年60名ほどの大学生を募り、これらの金佐鎮関連施設や、高句麗・渤海関連史跡および白頭山をめぐる団体旅行ツアーを行っている。本研究では、金佐鎮将軍記念事業会が中国内で推進する歴史顕彰活動を事例として、近年、中国東北部において観光地化が進んでいる韓国系民族独立運動関連史跡の実態について明らかにする。

### Summary

Korean tourism has boomed in China in recent years. Tours of the northeastern area of China around the Yanbian Korean Autonomous Prefecture in Jilin Province have become increasingly popular. In addition to climbing the summit of Paektu-san (Chinese name: *Changbaishan*, regarded by the Korean people as a holy mountain), visiting the Complex of Goguryeo Tombs (designated as a UNESCO World Heritage site), and touring the maritime border between Korea and China (thereby viewing North Korea up close), visiting former sites of the anti-Japanese independence movement has been growing in popularity in recent years. These new tourism spots highlight the sites of Korean independence activism during the Japanese colonial period. This study examines trends of Koreans in China and considers the impact of these historical national independence movement sites as tourism locations on Sino-Korean political relations.

The study places a particular focus on historical sites connected to the Battle of Cheongsanri, a conflict that took place in October 1920 near

Cheongsanri (in modern-day Helong County, Jilin Province) between anti-Japanese Korean armed groups and Japanese forces. The battle is viewed in South Korea today as the most successful conflict of the anti-Japanese independence movement, and it is referred to as the “Great Victory at Cheongsanri”. The Korea Liberation Association commemorated the 80th anniversary of the Battle of Cheongsanri and unveiled the “Monument to Commemorate the Great Victory at Cheongsanri” at the battleground site in 2001. Moreover, a considerable amount of work has taken place at historical sites with connections to General Kim Jwa-jin (the supreme commander of the Korean independence forces at the Battle of Cheongsanri) in recent years. The General Kim Jwa-jin Memorial League is the organization undertaking these projects; it was also responsible for establishing the Sino-Korean Friendship Garden (completed in 2007) and Sino-Korean Friendship Square (completed in 2010) in the area where the general once lived (Heilongjiang Province in China). The league recruits approximately 60 university students every year to participate in a group tour of institutions connected to Kim Jwa-jin and historical sites connected to Goguryeo and the Bohai Sea and Paektu-san. This study refers to historical celebration activities organized by the General Kim Jwa-jin Memorial League in China as a case study to understand the reality of historical sites linked to the Korean independence movement in northeastern China that have become tourism spots in recent years.

キーワード：金佐鎮、青山里戦闘、キムウルドン金乙東、ソンイルグク宋一国、中国朝鮮族、  
東北アジアのツーリズム

**Key words** : Kim Jwa-jin, The Battle of Cheongsanri, Kim Ul-dong, Song Il-guk, Koreans in China (Chaoxianzu), tourism in Northeast Asia

## はじめに

近年、韓国では中国への観光旅行が盛んである。特に中国吉林省内にある延辺朝鮮族自治州や、その近辺の中国東北部を巡るツアーは人気の観光コースとなっている（真鍋 2009）。朝鮮族が集住する延辺朝鮮族自治州は、中国語の他に朝鮮語が公用語として使用され、韓国のウォン貨も通用し手軽に観光を行うことができる。また韓国から地理的に近く、短期間で回れる低価格のツアーがたくさんあるのも人気の理由である。このような手軽さ以外に、この地域は韓国人にとって魅力ある様々な観光が楽しめる場所となっている。

第一にあげられるのが、白頭山（中国名は長白山）の観光である。中朝の国境を跨がって位置する白頭山（海拔 2776m）は、朝鮮半島で最も高く、朝鮮民族の聖山と見なされている山である（佐々 2012:112）。韓国人にとっての白頭山は、譬えるなら日本人にとっての富士山に匹敵する山である。韓国人なら誰でも、一生に一度は白頭山に登って、天池（頂上にあるカルデア湖）を眺めて見たいと思う。しかし、現在は、南北分断によって朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮）側から登頂することが不可能であり、中国側から白頭山に登るしか方法がない。

第二にあげられるのは、高句麗古墳の観光である。周知の通り、高句麗（B.C37～668年）は新羅・百済と並び、朝鮮の三国時代に活躍した古代部族国家である。特に第14代広開土王とその息子の長寿王の時代に、朝鮮半島北部から中国東北部にまたがる巨大な領域を領有した国として、高句麗は歴史好きな韓国人の誇りとなっている。2002年に中国と北朝鮮の共同申請により、高句麗古墳壁画がユネスコの世界文化遺産に登録されて以降、観光開発が進められ、中国側の高句麗古墳遺跡は今や多数の韓国人が訪れる人気の観光コースとなっている。

第三にあげられるのは、北朝鮮に隣接し、北側住民などを間近で見ることができる場所であることである。鴨緑江沿岸や豆満江沿岸地域からは、北朝

鮮のすぐ目の前まで近づいてくれる観光遊覧船が出ており、延辺市内で営業している北朝鮮レストランでの会食とセットにして観光の目玉となっている（ただし近年は南北関係の悪化により規制され自粛中）。

このような観光地の他に、最近では、もう一つ観光スポットが増えている。日本の植民地時代に展開された抗日民族独立運動関連の史跡が、韓国人観光客の間で人気を博している。1910年の韓国併合後、朝鮮の民族独立運動家の多くは中国東北部へ渡り抗日独立運動を展開した。1992年に中韓間の国交が樹立した後、韓国や朝鮮族の歴史学者たちを中心にそれらの史跡に関する詳しい学術調査が行われた（朴烜 2012; 孫春日 2009）。その中の重要なものが、独立功労者の遺族団体（光復会や遺族会等）や政府機関（国家報勲処や独立記念館等）の支援のもとに復元・整備され、中国側当局の管理下で維持・運営が行われている。韓国人にとって、植民地時代に中国領内で展開された抗日独立運動は、自国の近代史を構成する重要な一部である。そのために、中国東北部にある抗日独立運動関連史跡は、今や多くの韓国人が訪れる有名な観光地となっている<sup>1)</sup>。

その一方で、この地域は、中国と韓国との間で歴史認識をめぐる問題が発生している場所でもある。19世紀後半、清朝による封禁政策の撤廃と朝鮮半島北部の自然災害の影響も相俟って、豆満江北岸の「間島（壘島）」と呼ばれる地域に朝鮮人移住者が急増するようになった。この地域の領有権をめぐり、19世紀末から20世紀初めにかけて清朝政府と朝鮮政府との間で激しい紛争が起こった。しかし、1905年の第2次日韓協約によって朝鮮を保護国とした日本は、1909年に「間島協約（満州及び間島に関する日清協約）」を締結して、間島の領有権・警察権を清側に認める代わりに、朝鮮人の土地所有権などを獲得した（李盛煥 1991: 106）。1949年に中華人民共和国が成立した後、間島の地は延辺朝鮮族自治州となっているが、韓国人の人々にとって「この場所はもともと我が民族が領有していた土地である」という意識が強い。

さらに、近年、中国と韓国との間でこの地域をめぐる歴史認識論争が起きている。中国では、2002年2月から2007年1月までの5年間にわたって、社会科学院の中国辺疆史地研究センターを中心に「東北辺疆歴史与現状系列研究工程」（以下、「東北工程」）という大規模な研究プロジェクトが推進された<sup>2)</sup>。この研究プロジェクトは、中国政府が掲げる「統一的多民族国家論」の立場から、東北地方で勃興したすべての部族・民族の歴史を、中国内の一地方政権の歴史として強制的に中国史に編入する目的で行われたものであった。これにより、高句麗は「中国辺境少数民族の地方政権」と見なされ、高句麗の歴史は朝鮮史ではなく、すべて中国史に属するものとされた。これに対して、韓国側では、中国の国策的な歴史歪曲行為であるとして「東北工程」に対する一大反対運動が巻き起こった。この反発運動は単に歴史学者たちの間だけではなく、民間のあらゆる分野で沸騰した。とりわけ韓国のテレビ局では、2006年から2008年にかけて、中国の「東北工程」に対抗するために高句麗を主題とするドラマを放映し、いずれも大きな人気を博した（佐々 2009:295）。「東北工程」プロジェクトはすでに終了したが、高句麗の帰属をめぐる歴史認識論争は、「間島」をめぐる領土問題と合わせて、中韓間で未解決の歴史認識問題としてくすぶり続けている。

本稿では、このような地域的特性をもつ中国東北部において、韓国系の民族独立運動関連史跡がどのような形で観光地化されているのか考察する<sup>3)</sup>。その際、特に青山里戦闘に関連する史跡や施設に焦点をあてて考察を行う。1920年10月に青山里（現在の中国吉林省和龍県内）で展開された戦闘は、朝鮮独立軍が正規の日本軍に勝利した、抗日独立運動史上最大の戦果を収めた戦いと評価されている。この青山里戦闘において朝鮮の独立軍部隊を主導したのが金佐鎮将軍である。近年、金佐鎮の後孫たちを中心に金佐鎮将軍記念事業会が発足され、同事業会の推進のもとに中国黒龍江省内に大規模な関連施設が建設された。金佐鎮将軍記念事業会は毎年60名ほどの規模で韓国の大学生たちを募り、青山里戦闘の跡地をはじめ、中国東北部にある韓国系

民族独立運動関連史跡をめぐる団体観光ツアーを行っている。この事業会が推進する各種の事業は、韓国ナショナリズムを前面に押し出したものであり、韓国系民族独立運動関連史跡の観光地化をめぐる諸問題が集約されている。本稿では、金佐鎮将軍記念事業会の活動に焦点を当て、近年、中国東北部において観光地化が進んでいる韓国系民族独立運動関連施設の実態について明らかにする。

## 1. 解放後の韓国における青山里戦闘の顕彰

本論に入る前に、まず青山里戦闘がどのような戦いであったのか述べておこう。1919年に朝鮮で三・一運動が起こると、抗日独立運動を行うために、日本側の監視の目が厳しかった朝鮮本国を離れて間島へ渡る人々が激増した。こうして間島を中心に朝鮮人による抗日独立軍部隊が多数編成された。これらの独立軍部隊は、朝鮮国内への侵攻を頻繁に繰り返し、日本側の派出所や軍事施設などを破壊する行為を行った（金敬泰 1992:201）。これに強い不安を覚えた日本側は、1920年10月7日に間島出兵を閣議決定し、朝鮮軍・関東軍・シベリア派兵軍など約2万名の兵力を動員して「不逞鮮人討伐」を名目とする進軍作戦を開始した。このような状況下で、1920年10月21日から26日にかけて中国吉林省和龍県の青山里一帯で、朝鮮人の独立軍部隊と日本軍が10余回にわたって激しい戦闘を繰り返した。この一連の戦いは、戦闘が行われた場所にちなんで青山里戦闘と称されている（愼鏞厦 1982:463）。また、この戦闘は、1919年4月に上海で創設された大韓民国臨時政府の命令系統に従う北路軍政署（正式名称は大韓軍政署）の戦闘員たちによって、大量の武器を購入した上で周到な準備のもとに戦われたものであった（佐々 2017）。

この戦闘に関しては、朝鮮側の記録と日本側の記録が大きく違い、戦闘員の規模、死傷者数など不明な点が多く、現在でも大きな論争的



となっている（佐々木 2012：493-516）。しかし、朝鮮側ではすでに解放前の時期からこの戦いを「青山里大捷（大捷は大勝利という意味）」と称し、抗日独立運動史上、最大の戦果をあげた戦闘と見なしてきた。その大きな理由として、金佐鎮將軍の活躍があげられる。金佐鎮（1889～1929年：号は自治）は190cm近い類い希な体躯と怪力をもった人物として、すでに旧韓末の時代から民衆たちの間で広く知られていた武闘派の独立運動家であった。金佐鎮は、青山里戦闘において主力部隊となった北路軍政署の総司令官をつとめた。彼は軍人としての専門教育を受けたわけではなかったが、その勇猛果敢な指導力の故に同胞たちから「將軍」と称せられた。朝鮮側において青山里戦闘の大勝利が伝えられていったのは、「金佐鎮將軍」というカリスマ化された英雄的人物がこの戦闘を直接指揮したことによるところが大きかった。

しかし、青山里戦闘における朝鮮独立軍の大勝利が大々的に唱道されていったのは、解放後、南朝鮮に樹立された大韓民国においてであった。これに関して、辛珠柏（2011）は、青山里戦闘に関する記憶が韓国現代史の中でどのように伝承され変容していったのかという問題について詳細な研究を行っている。辛珠柏の研究によると、青山里戦闘の戦果が過度に強調されていったのは、解放前後に活躍した軍人の李範奭（1900～1972年）によるものであったとされる。李範奭は青山里戦闘が戦われた際、北路軍政署の軍事教官をつとめ、金佐鎮の部下として日本軍と実戦を交えた。金佐鎮が1929年にこの世を去ったのに対して、李範奭は、青山里戦闘後も抗日独立運動家として華々しい活躍をした。1940年9月重慶において、蒋介石が率いる中国国民党政府の後援のもとに韓国光復軍が創設されたが、李範奭は参謀長（中將）としてこれに参加し、総司令部の核心部隊を指揮した（박영실 2003:91-2）。これにより、李範奭の名は一躍有名となった。その際、1940年に創設された韓国光復軍は、大韓民国臨時政府の正規軍と位置付けられたが、実際のところ、当時の臨時政府は有名無実化していた。それに対して、1920年に



戦われた青山里戦闘は、大韓民国臨時政府の傘下に編入された朝鮮独立軍が日本の正規軍に勝利した戦闘であったと見なされていた。そのために李範奭は、青山里戦闘勝利の記憶を再生させることによって、韓国光復軍の活動を鼓舞すると同時に、大韓民国臨時政府の存在を抗日独立戦争の立場から正当化させようとしたのである。李範奭は、1941年に中国西安で「光復叢書の第一巻」として『韓国的憤怒』を出版し、本書の中で青山里戦闘に関する記憶を生々しく甦らせた。

日本の敗戦によって祖国の解放が実現すると、李範奭は1946年6月に帰国したが、その際も青山里戦闘を勝利に導いた英雄的将軍という触れ込みで迎え入れられた。その後、彼は1946年10月に朝鮮民族青年団という極右団体を結成し、青年運動を展開した。その際、解放前に中国で出版した『韓国的憤怒』を韓国語に翻訳して、1947年に『韓国的憤怒：青山里血戦実記』（金光州訳、光昌閣出版）として刊行し、右派民族主義にもとづく愛国精神を青年たちに植え付けようとした。しかし、本書は李範奭の回顧的自叙伝として書かれたものであり、李範奭の活躍を強調するために、「日本軍の戦死傷者は3,300名」であったとして、日本側の被害が事実以上に誇大化されて記された（辛珠柏 2011：98）。これ以降、韓国社会の中において、青山里戦闘における朝鮮側の戦果が過度に強調されていった。そして、1948年8月15日に南朝鮮で大韓民国が建国された後も、李範奭は政界において重要な地位を占め、極右的な反共運動を展開していった。その際、李範奭の言動を通じて、青山里戦闘の記憶が祖国愛・民族愛として再生産されていったのである。

その一方で、青山里戦闘の記憶は、金佐鎮の息子であった金斗漢（1918～1972年）の活動を通じても拡散されていった<sup>4)</sup>。金斗漢はソウルの小学校を卒業した後、孤児同然の浮浪児生活を幼少期に過ごした。植民地時代末期にはソウルの繁華街鍾路を中心にヤクザ（任侠）の世界で親分として活躍し、18歳にして約3万人の構成員を抱える任侠団体・鍾路派の頭目になった。そして解放後、金斗漢は右翼勢力に加担し、1946年4月に旗揚げされた大韓民

主青年同盟に加入した。この団体は、米軍政の後押しを受けながら「反共」の前線に立つ団体として、左翼が主導するゼネストなどを破壊する行為を行った。金斗漢はこの団体の監察部長として、白色テロの実質的な指揮者として活動した（韓洪九 2003：83）。この反共団体の活動を通じて、青山里戦闘における金佐鎮將軍の活躍が強調されていったのである（辛珠柏 2011：96-7）。その後、金斗漢は、1954年ソウル市鍾路選挙区から無所属で出馬し、第3代議員に当選した。また、1965年にもソウル市龍山区の第6回国會議員補欠選挙に立候補し当選した。しかし、国会での論乱中に議員たちに汚物をぶちまけるといふ、前代未聞の国会汚物投擲事件を起こした<sup>5)</sup>。この事件で、金斗漢は議員職を辞任し、西大門刑務所に収監され、1966年病気による保釈で出獄した。政界引退後、1972年に他界し、波瀾万丈の生涯を閉じた<sup>6)</sup>。

以上に述べたように、解放政局の激烈な左右対立の渦中で、李範奭の朝鮮民族青年団や金斗漢の大韓民主青年同盟といった反共団体の活動を通じて、右派民族主義にもとづく愛国主義的な青年教育の一環として青山里戦闘の戦果が語り継がれていった。その後、朴正熙による軍事独裁政権が発足すると、青山里戦闘の記憶は、歴史教科書を用いた歴史教育を通じて、共産主義陣営に対抗するための「国民の集团的記憶」として大衆化されていった<sup>7)</sup>。1970年代の維新政権時代になると、自国史の分野が社会科から分離され、国史科という独自の教科目がつくれ、『国史』の教科書は国定のも一つだけに定められた。ちょうどこの頃は、南北のイデオロギー対立の中で、歴史的正当性を中心とした思想競争が始まった時期であり、朴正熙の維新政権は、北朝鮮の主体思想と金日成主席中心の抗日武装闘争に対抗するための歴史的遺産として、青山里戦闘の勝利を特に重要視した（辛珠柏 2011：108）。「青山里戦闘における抗日独立軍の大勝利」という語りは、その後の歴史教育においてもそのまま引き継がれていった。現在、韓国の小・中・高等学校の各種歴史教科書の中では、日帝強占期に展開された抗日独立運動の項目で、青山里戦闘の内容が必ず記載されるほどにまでなっている<sup>8)</sup>。このよう

にして、解放直後の反共運動の中で召喚された青山里戦闘の記憶は、朴正熙政権下において国民統合を行うための集团的記憶としての役割を果たし、現代韓国社会の中で愛国主義的な歴史教育を行うための「現代の神話」として定着していったのである。

## 2. キムウルドン ソンイルグク 金乙東と宋一国親子による反日活動

韓国内で青山里戦闘が注目されることによって、青山里戦闘を主導した金佐鎮将軍と関連する史跡の整備が盛んに行われていった。1971年には韓国忠清南道保寧郡が金佐鎮の墓域を整備し、1989年に忠清南道記念物第73号に指定された。また、金佐鎮の故郷である忠清南道洪城郡では、1989年12月20日に「金佐鎮将軍誕生100周年」を記念して、金佐鎮の生家地を忠清南道記念物第76号に指定した。その後、1991年には生家が復元され、1998年に自治記念館が開館した。さらに、2001年には金佐鎮将軍祠堂（白治祠）が建てられ、2007年に生家一帯を含む形で自治公園が造成された。これら金佐鎮関連史跡の中で、青山里戦闘に関する顕彰が行われていった。

青山里戦闘に関する顕彰事業は、1990年代に入ると大きな転機を迎えた。1992年に中韓間で国交が樹立されると、韓国の歴史学者たちが中国へ渡り、中国内で展開された抗日独立運動に関する現地調査を行っていった<sup>9)</sup>。このような現地調査と運動しながら、中国内における青山里戦闘関連の史跡を整備しようとする運動が盛り上がっていった。その結果、2001年8月に青山里抗日大捷記念碑修建委員会が国家報勲処の支援を受け、延辺朝鮮族自治州内の和龍市青山村に「青山里抗日大捷記念碑」を建設した（写真1）。

このような時代の流れに乗って、中国内にある金佐鎮関連の史跡を復元しながら青山里戦闘に対する顕彰を大々的に行おうとする事業が推進されていった。この事業を推進したのが、金斗漢の娘（正妻・李載姫の長女）であるキムウルドン 金乙東（1945年生）であった。金乙東は1967年に東亜放送（DBS）の声



写真 1：青山里抗日大捷記念碑（2013 年 8 月 20 日、筆者撮影）

優として採用され、1971 年に TBC でテレビタレントとしてデビューして以来、40 年以上芸能界で活躍してきた韓国を代表する女優である。彼女は女優業の傍らで、政治家としても活躍していった。金乙東が政治の世界に足を踏み入れたのは、1995 年に行われた第 1 回地方選挙のソウル市議会議員選挙においてソウル東大門区で出馬し、全国最多得票率で当選してからである。その後、彼女は 2003 年にハンナラ党京畿道城南市壽井地区党の委員長をつとめ、2008 年 4 月に行われた第 18 代総選挙で「未来希望連帯」（前身は「親朴連帯」）の比例代表候補として国会議員に当選した。2012 年 4 月に行われた第 19 代総選挙においてもソウル市松坡区からセヌリ党の公薦を得て立候補し、再選を果たした。その間、親朴権恵派の議員として活躍し、2014 年 7 月からは与党セヌリ党の党最高委員 4 人のうちの一人に選出されている。

金乙東の政治活動で際立っているのは、過激とも言えるほどの反日活動を行っている点である。彼女は特に独島／竹島をめぐる領土問題に強い関心を見せ、2008 年に国会の独島領土守護対策特別委員会委員をつとめた他、2010 年には韓国海軍の軍艦『独島』艦上で大型音楽会を開催することを提案した。さらに、韓国の全国民に仮想で独島の土地を分譲するという独島仮想分譲事

業案を出したり、鬱陵独島海上国立公園新規指定案を出したりもしている（金乙東 2011：282）。また、彼女は、植民地支配に対する日本側の歴史認識に対する非難を頻繁に繰り返している。安重根が死去してから 100 年にあたる 2010 年 4 月に、韓国政府は「安重根義士遺骸発掘推進団」を結成した。ちょうどこの頃、偶然にも、同年 3 月に伊藤博文の 5 代外孫にあたる松本剛明氏が日本の外務大臣に就任した<sup>10)</sup>。その際、金乙東は、「大韓独立軍団総司令官金佐鎮將軍の孫娘であり大韓民国国会議員の資格で、初代朝鮮統監伊藤博文の後孫である松本剛明外務大臣に、両国の国家的・民族的次元での協力を要請」するとして、正式な書簡を送っている。その書簡を通じて、彼女は「日本で進行中である安重根義士遺骸発掘関連業務の進行状況」と「日本に存在している安重根義士遺骸と関連したすべての資料を…調査して韓国に提供する」するよう要請している（金乙東 2011:273）。その後、彼の任期中に何の返信も返って来ないのを見て、金乙東は再び「日本外務大臣松本剛明に告げる」という声明書を発表した。その内容は、「あなたは日本を帝国主義という病気にさせた伊藤博文の後孫として、歴史的・民族的・全人類的な責任を感じていないのか。…今日の韓国に対する日本の積極的な略奪の仕方を見ると、100 年前の伊藤の侵略 DNA がその孫にまでも流れており、彼を通じて日本の帝国主義侵略の亡霊が躍っているのではないかという憂慮を禁じ得ない。…私たちは国を失っても命を捧げ、国を回復した誇らしい先祖の血筋として、日帝の侵略行為に対して全国民が一致団結し断固として対処していくことを警告する」（金乙東 2011:276-7）という内容となっている。

また、金乙東は、親日歴史清算に関する立法運動にも積極的に関与している。彼女は 2008 年に「独立有功者礼遇に関する法律一部改正案」を發議した。これは、『親日派のための弁明』を著述した金完燮が訴えられた裁判において、韓国の大法院（日本の最高裁判所に相当）が金完燮に罰金 750 万ウォンの判決を最終確定したことを受けて發議したものである。金乙東はこの判決に憤慨し、「独立有功者礼遇に関する法律」（1994 年制定）の内容をよ

り厳しいものに改正することを建議したのである。結局この法案は国会を通過しなかったが、これと関連して「親日反民族行為者財産の国家帰属に関する特別法」の改正を推進し、この法案は2011年4月に国会本委員会で可決されている(金乙東2011:265)。

また、2013年に朴槿恵政権が発足すると、独立運動家後孫の代表格として活動している金乙東は、軍人を支持基盤の一つとする朴槿恵政権の中で頭角をあらわしていった。彼女は、2014年7月から2016年4月まで与党セヌリ党の党最高議員をつとめた。この期間中、金乙東は、朴槿恵大統領が提案した歴史教科書の国定化運動を主導していったことで知られている。韓国の歴史教科書は、朴正熙大統領の軍事独裁政権だった1974年に、中学・高校用で計11種類あった歴史教科書が中高各1種類の国定教科書に一本化された。その後、国民からの批判を受けて、進歩派の盧武鉉政権が2007年に国定制度の廃止を決定した。その後は検定制が導入され、複数の民間企業が教科書を作成し、学校側が自主的にそれを選ぶという仕組みに変わった。しかし、朴槿恵大統領は、2015年10月10日の閣議において、中学・高校の歴史教科書を検定制から国定制に戻し、2017年度の新入生から国定教科書を使用すると告示した。これに対して、国定教科書制度は時代に逆行するものとして、教育界を中心に激しい反対運動が巻き起こった<sup>11)</sup>。この騒動の中で、金乙東は、同年10月8日にセヌリ党の歴史教科書改正特別委員会委員長に就任し、朴槿恵大統領の発言に従って歴史教科書の国定化を強行していった。先に述べたように、朴槿恵の父である朴正熙政権時代に、金乙東の祖父である金佐鎮将軍が活躍した青山里戦闘の事蹟が国定教科書に掲載され、反共運動のための右派国粹主義的な祖国愛の造成に一役買った。いま再び、朴正熙の娘・朴槿恵大統領は、右派保守による歴史認識を国民に強要するために歴史教科書の国定化を決定したが、金佐鎮将軍の孫娘・金乙東が与党セヌリ党の最高議員としてそのサポート役を果たしたわけである<sup>12)</sup>。

そしてまた、金乙東の息子である俳優の宋<sup>ソニル</sup>一<sup>イル</sup>国(1971年生)も、母親の政



治活動と連動して反日的な文化活動を展開している。宋一国は1998年にMBC第27期公募タレントとしてデビューし、ドラマ『海神』（2004年MBC）に出演して人気を得た後、MBC放送局にて2006年5月から2007年3月まで放映されたドラマ『朱蒙』の主役に抜擢され、一躍有名となった。彼は金乙東の実の息子であり、金佐鎮將軍の曾孫にあたる人物である。身長185cm、体重85kgの体格は、まさに金佐鎮將軍の現代版を彷彿とさせる。宋一国は、安重根義士逝去100周年を記念して、2010年7月から8月にかけて上演された『私はお前だ』という演劇で、安重根と息子の安重生の役柄を一人二役で熱演した。先に述べたように、金乙東は「日本外務大臣松本剛明に告げる」書簡を日本側に送っているが、これは息子・宋一国の演劇を支援するためでもあった。また、宋一国は2008年に釜山地方裁判所の女性判事と結婚し、2012年8月三つ子が誕生した。その際、まだ胎内にいて性別が分からない時に、デハン（大韓）、ミングク（民国）、マンセ（万歳）という名前をつけて話題となった。ちょうどこの時、宋一国は、2012年8月15日の光復節記念として、歌手キム・ジャンフンや韓国体育大学水泳部学生らと一っしょに慶尚北道蔚珍郡竹辺－独島間（直線距離220km）をリレーで泳ぐイベントに参加した。これに対して、当時、日本の山口壮外務副大臣が、日本の放送番組に出演し、宋一国に対して、「申し訳ないが、これから日本に来るのは難しくなるだろう。それが国民的な感情だと思う」と述べた。これに対して、宋一国はツイッターで、「日本外務副大臣『宋一国、これから日本に来られない』、何とも言う言葉がない。ただ、私の三人の息子の名前でも呼んでみよう。大韓（テハン）、民国（ミングク）、万歳（マンセ）」とコメントして物議を醸したことがある<sup>13)</sup>。このように、日本に対する反日感情を強く持つ金乙東・宋一国親子によって、中国内における金佐鎮將軍関連施設の建設という一大事業が展開されていったのである。



### 3. 中国内における金佐鎮將軍関連施設の建設

金乙東は政治家としての道を歩み始めた頃から、中国内における金佐鎮將軍関連史跡を整備する事業を展開していった。その活動母体となったのが、1999年に発足された社団法人白冶金佐鎮將軍記念事業会である。金乙東は同会の常任理事に就任し、中国黒龍江省内に金佐鎮関連史跡を復元する巨大な事業を推進していった。金佐鎮は青山里戦鬪を戦った後、中国黒龍江省の寧安県に避難し、1925年に新民府、1929年に韓族総聯合会という僑民団体を組織した。1929年頃に、金佐鎮將軍は数十名の独立軍同志を率いながら、中国黒龍江省寧安県山市（中東鉄道線の山市駅付近）で金星精米所を運営していた。しかし、1930年1月24日その精米所で高麗共産党青年会員である朴尚実の凶弾に倒れ、41才の若さでこの世を去った（李成雨 2011：181）。同事業会は、中国黒龍江省海林市に「韓中友誼公園」という巨大な施設の建設に取りかかり、2005年10月に開園式を行った後、2007年に完成させた（写真2）。金佐鎮將軍が実際に活動していた場所（山市鎮）は現在、僻地の小さな農村であるために、附近の都市部である海林市に記念公園が造成されたの



写真2：韓中友誼公園の正面門（2014年7月30日、筆者撮影）



写真 3: 白冶金佐鎮將軍記念館 (抗日武装闘争歴史館) (2014 年 7 月 30 日、筆者撮影)



写真 4: 山市中韩友谊广场 (2014 年 7 月 30 日、筆者撮影)

である (노성태 2010:196)。韓中友誼公園には、四万余坪の敷地に中央公園と 2 階建ての大きな「白冶金佐鎮將軍記念館 (抗日武装闘争歴史館)」が建てられている (写真 3)。一方、金佐鎮將軍が凶弾に倒れて亡くなった場所 (黒龍江省山市鎮) は「金佐鎮將軍殉国地」と称され、2010 年に「山市中韩友誼广场」が造成された (写真 4)。同公園の中心には、金佐鎮將軍の銅像が建てられ (写真 5)、それを取り囲むように、当時の住宅、同志たちが集合し



写真5：金佐鎮将軍の銅像（2014年7月30日、筆者撮影）



写真6：金星精米所内の「金佐鎮将軍殉国地碑」（2014年7月30日、筆者撮影）

た八路会議室、井戸、殺害場所である金星精米所などが復元された（写真6）。

金乙東が中国の地に金佐鎮関連施設を建設していった時期は、独島／竹島問題や従軍慰安婦問題などが深刻化して日韓関係が険悪となった時であった。また、尖閣諸島をめぐる領土問題と南京事件などの歴史認識問題などによって、日中関係も最悪となった時期であった。一方、経済分野において協力関係を深めた中国と韓国は、日本帝国主義の共通の犠牲者であった点を強

調することによって、歴史認識紛争の分野において日本側に共闘して対抗しようとする姿勢を見せていた。中国内において、韓国系民族独立運動に関連した巨大な施設が建設可能となったのも、金佐鎮將軍関連施設が「抗日・反日」を全面に掲げるものであったからだと考えられる。

そしてまた、中国内における金佐鎮関連施設の建設が成功した理由として、俳優の宋一国がこの事業を全面的にサポートしている点があげられる。宋一国は、金佐鎮將軍記念事業会の理事として参与し、同会が推進する事業を積極的に支援していった。金乙東自身、金佐鎮將軍記念事業に全財産をつぎ込み、住んでいた家まで売り払って記念事業に熱意を注いだ（金乙東 2011：130）、息子の宋一国も母親の活動を全面的に支援していった。これに関して、金乙東は、「息子は祖父の記念事業のために自分の私財を差し出した。もし、宋一国の助けがなければ祖父の記念事業を維持し続けることはできなかったであろう」（金乙東 2011：138）と述べ、「宋一国は『朱蒙』の延長出演で得たギャランティーのすべてを、中国に建てていた金佐鎮將軍記念館建立に差し出した。そのおかげで中国黒龍江省海林市に世界最大規模の海外顕忠施設である韓中友誼公園（金佐鎮將軍記念館）が完成した」（金乙東 2011：70）と証言している。

しかし、ここで一つ大きな疑問が生じるはずである。ちょうどこの時期は、中国と韓国との間で「東北工程」をめぐる歴史認識論争が発生した時である。しかも、金佐鎮將軍記念事業会を支援した宋一国は、「東北工程」に対抗するために制作された高句麗ドラマの先駆けとなった『朱蒙』において、主演をつとめた俳優である<sup>14)</sup>。それにもかかわらず、なぜこれだけ大規模な事業が中国内で実現できたのか。これに関しては、さまざまな理由が考えられるが、最大の理由として中韓間の経済的結びつきの深さがあげられよう。ちょうどこの時期、輸出・輸入の両面において韓国の対中依存度は年々上昇し、新たな市場を求めて韓国企業が次々と中国へ進出をしていった。一方、中国側も、中国国内において相対的に経済発展が遅れた東北辺境の黒龍江省にお

ける地域開発のために、韓国人の観光開発を許可し、外資の導入を積極的に誘導しようとした。

また、黒龍江省は吉林省に次ぐ朝鮮族集住地域であった点も、大きな理由の一つとしてあげられる<sup>15)</sup>。中国語と朝鮮語を話し、しかも現地の事情に詳しい中国朝鮮族の支援を受けることによって、韓国側は中国内の大型事業を円滑に進めることができたからである。一方、中国側も、韓国からの直接投資や経済援助という形で、朝鮮族の生活改善につながる大型支援を受けることができた。このように韓国系民族独立運動関連史跡の整備という事業は、中国朝鮮族という媒介項を通じて、中韓双方に利益を生み出すプロジェクトとなったのである。

実際、中国内に金佐鎮関連施設を建てようとしたのも、黒龍江省に在住する朝鮮族からの働きかけによるものであったとされる。これに関して、金乙東自身、金佐鎮記念事業を立ち上げたきっかけが、「黒龍江省海林市の副市長をはじめ朝鮮族同胞たちが韓国を訪問し、金乙東のもとに来て、金佐鎮将軍が亡くなった場所が黒龍江省海林市山市鎮であることを知らせ、その場所に史跡を残さなければならない」とわざわざ進言したためであったと証言している。これを受けて、金乙東はすぐさま現地へ向かい、金佐鎮将軍が死去したと考えられる場所の近隣 11 棟を経済補償する条件で取り壊し、その場所に金佐鎮将軍の活動を顕彰するための施設を造成し始めた。これが金佐鎮将軍記念事業の発端であったと証言している（金乙東 2011：152）。その後、金乙東側は、現地の朝鮮族に様々な援助を行っている。現在 20 余万名の朝鮮族が生活している黒龍江省海林市には、金佐鎮将軍が 1927 年に設立したとされる小学校が朝鮮族の民族学校として存続している（金乙東 2011：153）。この海林市朝鮮族実験小学校は中国 56 民族の演技演芸部門芸術競技大会において 6 年連続最優秀賞を受賞している。金乙東は、同小学校芸術団の子どもたちを、2000 年、2007 年、2010 年に韓国に招聘した。2011 年には（株）ロッテ百貨店の支援によって同校の子どもたちが韓国に招待されている（金

乙東 2011 : 162-3)。

しかし、このような事業展開の在り方は、実際のところ、漢族との同化が進む朝鮮族同胞たちに、朝鮮民族としての民族的アイデンティティを強化・堅持させることを目的としたものであった。中国の改革・開放政策の実施後、市場経済の進展の中でより多くの収入を得るために、朝鮮族の人々は辺境地である東北部の農村を離れて、沿海都市部（上海、北京、青島等）や外国（主に韓国）へと移動するようになった<sup>16)</sup>。その結果、朝鮮族小中学校の学生が減少し、農村部の朝鮮族村には現在、中学校・高校はほぼなく、小学校しかない状態になっている（花井 2011 : 70）。さらに、残された朝鮮族学校においても、中国社会で競争するには漢語能力が問われるために、学校教育で朝鮮語教育と同時に漢語教育を強化する傾向にある（花井 2011 : 76）。朝鮮族社会において、このような民族学校の減少及び漢族化は、民族文化と民族言語の喪失につながるとして非常に懸念されている（玄武岩 2013 : 239）。こうした現状に対して、「中国同胞たちによりよい韓国の伝統文化及び現代式礼節文化を普及させ、生活に便利な施設を支援し、中国同胞青少年たちに中国内での経済力強化のための教育支援の役割をする」（金乙東 2011 : 155）ことが、金佐鎮將軍記念事業会の目的として掲げられている<sup>17)</sup>。

しかし、このような事業会の在り方は、朝鮮族以外の中国人を排除してしまう傾向を生み出してもいる。例えば、海林市に造られた「韓中友誼公園」の場合、その名称通り、施設の目的は「韓中間の友好促進」にあるとされているが、実際のところ、金乙東は自らの著作の中で次のように述べている。すなわち、「私は朝鮮族同胞たちが数多く住んでいる海林市に白冶金佐鎮將軍記念館を建立した。中国の土地に建てる建物であり、中国政府の許可を得るために名前は韓中友誼公園とつけた。韓中友誼公園（白冶金佐鎮將軍記念館）が中国同胞たちと大韓民国の架け橋となることを願い、大韓民国のあらゆる文化を盛り込むことができる空間として記念館を設計した」（金乙東 2011 : 155）。また、山市鎮に造成された「山市中韓友誼広場」の場合もまっ





写真7：山市中韓友誼公園の入り口大門（2014年7月30日、筆者撮影）

たく同様である。これに関して、金乙東は、「金佐鎮將軍記念広場と言わなければならないものを、他人の領土であるために、金佐鎮將軍とは異なる名称となってしまった」（황의천 2011:166）と述べ、公園のデザインについても、「祖父の殉国地は最も韓国的であるべきである」として、「韓国から職人たちを送って韓国式の瓦を葺いて、韓国伝統の大門も大韓民国を眺める方向に新しく作った」（金乙東 2011:153）（写真7）とし、「中国では毛沢東の銅像以外には胸像がほとんど無いので、中国政府の顔色を見ながら、玉で作った金佐鎮將軍の銅像を建てた。しかし、…管理するには制限が多くあり、…祖父に本当に申し訳ない」（金乙東 2011:152）と述べている。このような証言から、金佐鎮將軍関連施設の設立目的が、「韓中友好」というよりは、中国内に韓国資本の巨大な施設を建造することによって、漢族との同化が進む中国朝鮮族に民族的誇りを回復させ、韓国と中国朝鮮族との紐帯をより深めるためであったことがうかがえる。



#### 4. 金佐鎮將軍記念事業会による「青山里歴史大長征」ツアー

現在、金佐鎮將軍記念事業会はさまざまな事業を展開している。その中で最も重要な活動が「青少年愛国 (나라 사랑) 体験プログラム」と銘打って実施されている「青山里歴史大長征」ツアーである。このツアーは、同事業会が黒龍江省に建設した金佐鎮將軍関連施設の他、青山里大捷記念碑などの抗日独立運動史跡地や高句麗・渤海の遺跡を巡るものであり、韓国の大学生や国外の僑胞学生を対象に、夏休み期間中 10 日間ほどの日程で毎年行われているものである。第 1 回目は 2001 年の夏休みに開催され、韓国内の大学生の他、アメリカ・カナダ・イギリスなどから来た僑胞学生 90 余名が参加した。

このプログラムは、国家報勲処からの後援のもとで行われる毎年恒例の行事となっており、2012 年度からは参加費が無料ということもあり (2011 年度までは参加費 50 万ウォン)、毎年多数の若者が参加している。宋一国も多忙なスケジュールの合間をぬって、毎年この「青山里歴史大長征」ツアーに参加している。特に 2007 年は「韓中友誼公園」が開園した年でもあり、この年に行われた第 6 期「青山里歴史大長征」ツアーでは、宋一国を隊長として 60 余名の大学生が参加した他、京畿大学校のイム・ヒョンジン教授や、MBC 文化放送の報道陣らが同行取材し、その様子が韓国内で詳しく報道された (김영숙 2007:110)。ちなみに、昨年 (2015 年) 行われた第 14 回「青山里歴史大長征」ツアーには、64 名の大学生が参加している。旅行のコースは、まず韓国内で忠清南道洪城郡にある金佐鎮將軍の墓所・生家・祠堂を参観した後、仁川港から舟で中国遼寧省の大連へ渡って、以下のコースを辿っている (図 1 を参照)。大連 (旅順監獄、関東法院旧址) - 丹東 (鴨緑江遊覧船、中朝友誼橋) - 桓仁 (卒本城) - 集安 (高句麗史跡、將軍塚、広開土大王碑、長寿王陵) - 通化 - 白頭山 (西坡) - 金剛大峡谷 - 二道白河 - 延辺朝鮮自治州 (青山里大捷記念碑、一松亭、尹東柱生家、3・13 反日義士陵、



図1：青山里歴史大長征ツアー行程図（森田耕平作図）

大成中学校など）－延吉－図們－鳳梧洞戦闘戦跡碑－渤海遺跡（東京城）－海林市（韓中友誼公園）－朝鮮族実験小学校（児童による公演観覧）－山市（金佐鎮将軍殉国地）－ハルビン（731部隊関連施設、ソフィア聖堂、ロシア街、ハルビン駅舎内の安重根記念館）。そして、ハルビン空港から飛行機で仁川空港に戻り解散となっている<sup>18)</sup>。

また、国会議員や政府機関関係者、企業家らも、多数このプログラムに参加している。特に2010年は、「安重根義士逝去100周年と青山里独立戦争90

周年と金佐鎮將軍殉国 80 周年」を迎える年であるとして、「抗日歴史探訪巡礼」という特別なツアーが企画された。その際、第 9 期「青山里歴史大長征」隊員たち 120 余名と共に、与野党を含む韓国の第 18 代国会議員 29 名が中国東北三省を訪問した（김종해 2010：69）。同年 7 月 5 日には、黒龍江省山市鎮で「白冶金佐鎮將軍殉国地」の開館行事が行われ、金佐鎮將軍の魂を慰撫するためのナムサダン（男舎堂）芸人たちのピナリ（鎮魂祭）が行われた（金乙東 2011：151）。さらに、その翌年の 2011 年にも、12 名の国会議員たちが「抗日歴史探訪」という名目で「青山里歴史大長征」ツアーに参加した（金乙東 2011：161）。その他、大企業もこのプログラムを後援し、関連団体の人々をこのツアーに参加させている。例えば、韓国最大の財閥企業であるサムスは、韓中友誼公園内の金佐鎮將軍記念館にパソコンを寄贈し、サムスン夢奨学財団の奨学生たちを「青山里歴史大長征」ツアーに参加させている。これに対して金乙東は、「グローバル企業として祖国の歴史を忘れず、このような活動に協力してくれることに感謝する」（金乙東 2011：165）と述べている。

しかし、「青山里歴史大長征」ツアーの内容を見てみると、韓国ナショナリズムが前面に強く打ち出されたものとなっている。まず、このツアーでは青少年に対する「正しい歴史教育」を謳っているが、その内容は青山里戦闘における金佐鎮將軍の活躍を過度に強調するものとなっている。その際、特に問題なのは、青山里戦闘の戦果に関して、歴史的な根拠に乏しい誇張された数字が採用されていることである。例えば、2006 年に行われた「青山里歴史大長征」ツアーの記録を見てみると、「金佐鎮將軍が率いる北路軍政署 600 余名は…日本軍 2 個師団 5 万余名と戦い、3,300 余名の死傷者を出す戦果をあげた」（김용호 2006：42）と説明されている。これらの数字は、解放前後になされた李範奭の自叙伝にもとづくものであり、現在、韓国の歴史学界でもその信憑性が大きく疑問視されているものである（辛珠柏 2011：107, 113）。そして、このような過度に強調された青山里戦闘の戦果をもとに、同

事業会は「青山里歴史大長征」の目的について次のように述べている。すなわち、「我が国が弱く劣悪な環境でも、世界最高の IT 強国として飛躍したことは、我々の独立先烈たちがあらゆる面で劣悪だった青山里独立戦争で日本軍を大破したのがその原動力であった。この青山里精神こそが、まさに現代版ベンチャー精神である」。さらに、このツアーの成果について次のように述べている。「歴史大長征へ参加した隊員たちは、初めて足を踏む中国の地で、独立先烈たちの血と汗で染みついた戦跡地と遺蹟地の現場を直接体験し、感激し感動する姿を見せた。全国民が一つとなったワールドカップの熱気を受け継いで、白頭山天池で『大韓民国』を叫び全員が一つになる姿から、祖国と民族に対する思いを新たに感じる事ができた。隊員たちの行動により、国威を宣揚し、韓中間の友好促進、祖国愛と民族意識の涵養、そして歴史意識を鼓吹させる事ができた」<sup>19)</sup>。このように、主催者側はこのツアーの実施によって、祖国愛・民族意識の涵養や国威発揚といった効果の他に、「韓中間の友好促進」が図られたと認識しているのである。

それでは、このプログラム・ツアーは、中国側に一体どのように受け入れられているのだろうか。これに関しては、2006年の第5期と2007年の第6期の「青山里歴史大長征」ツアーの報告書が残されている。それらを見ると、旅行のクライマックスである「青山里抗日大捷記念碑」を訪問した際の記録(2007年)として、次のように記されている。

青山里抗日大捷記念碑は、毀損した碑石が大理石で磨滅しており、水が漏れ出したり、石が崩れたりした形跡が見られた。下から見た記念碑が、今やもの悲しく近づいて来た。我が民族の崇高で高貴な意志が宿っている記念碑の大理石がはがれ落ちて、無惨な姿で放置されている。床が凸凹しており、石柱も勢いがなかった。高さ 17m60cm、幅 25m の壮大な記念碑がよく管理されていないのは残念であった。…青年たいまつ隊員を率いるイム・ヒョンジン団長は…「この小さな碑が残念である。この現実が残念で

ある。日常の生活に戻ってもこの精神を忘れずにおこう」と語った。…隊員たちは記念碑の周辺の雑草を除去し、真心を込めて折ってきた野生花を献花した後、独立軍歌と愛国歌を大きな声で歌った。独立軍が思い切り歌うことができなかつた救国の歌が、87年を過ぎてやっと凄絶な抗争の現場である青山里の麓でこだまして鳴り響いた。…青年たいまつ隊員たちは…歩いて数百・数千kmを通過して祖国のために血を流した方々の食事であったおにぎりやじゃがいも食べて食事に代えた後、次の行き先へと向かわなければならなかつた。歴史の現場であるその道を必ずや一度は歩いてみたいと望んだが、残念にも中国の公安が見守っており、後日を待たなければならなかつた（김영숙 2007：111）。

また、2006年の記録には次のように記されている。「壮大な記念碑は中国や韓国政府の手が及ばないようであった。青山小学校が『青山里の我等の花園（청산리 우리 꽃동산）』として指定・管理しているが、手抜きであることが甚だしい。吉林省和龍市文物管理所は『危険な所であるから近寄らないように』という案内板を立てており、目をしかめさせる」（김용호 2006：41）。このような記録から、中国側がこの記念碑に対してかなり慎重な扱いをしていることがうかがえる。記念碑を訪れる韓国人観光客の言動があまりにも愛国主義的であり、そのような行動が、中国側当局の警戒心を強める結果になったのではないだろうか<sup>20)</sup>。また、地元の朝鮮族たちも、韓国側が資本投資して建造した民族独立運動関連施設に対して、それを管理・維持する際の低廉な労働力として動員されるのみで、施設そのものに対して「民族的な誇り」といったような特別な感情を特段有していないことがうかがわれる。

これに関して、筆者は、2013年と2014年に中国東北部にある青山里関連史跡および金佐鎮將軍関連施設の現地調査を行った。その際、2013年8月20日に、中国吉林省和龍県にある青山里抗日大捷記念碑を調査したが、上にあげた2007年の報告書に見られる通りの状態であった。すなわち、延吉市

内から現地に向かう通は舗装されておらず、砂利だらけのかかなりの悪道であった。現場には案内標識一つ掲げられておらず、地元のガイドを使っても容易にその場所が分からないほどであった。ようやく現地に到着すると、記念碑の敷地内に入るための玄関の門は閉じられていた。敷地内に入ろうとすると、向かいの民家から大型犬が飛び出してきて、けたたましい声で吠えまくり出した。地元のガイドに聞くと、人間を食い殺すことができる猟犬とのことで、首輪で繋がれていたとは言え、一般人が気軽に近づけるような状態ではなかった。すると、向かいの民家から住民が出てきて、訪問理由や訪問時間などを詳しく聞かれた。訪問客が来た場合、その要件を聞くように中国公安から申し付けられていたことは明らかであった。また、延吉市内にある各旅行社には、「記念碑の壁が崩れ落ちて危険な状態であり、立ち入り禁止となっている」という情報が流されてもいた。このことから、中国側当局がこの記念碑を一般公開することをためらっていることが確認できた。

筆者はさらに、2014年7月30日に黒龍江省海林市にある「韓中友誼公園」の調査を行った。この公園も、広大な敷地であるにもかかわらず、普段は閉まっており、一般人への公開はなされていなかった。玄関入り口の脇には、小さいながらもよく目立つ看板が立てかけられており、「世界朋友光臨公園、身体を鍛練するのに良い場所、老人が休憩するのに最適の場所、組織大型活動の理想的場所」と書かれていた。しかし、入り口の門が固く閉ざされており、一般の中国人の利用に供されている形跡はまったくなかった。一年のうち、夏期(7月～8月)に集中する韓国人団体旅行ツアーのためだけに利用されており、普段は門を閉ざして鍵をかけ、電気代などの必要経費を節約するために照明などすべてのスイッチを消した状態であるとのことであった。敷地内に入ると、「抗日武装闘争歴史館」の建物が聳え立っているが、その正面玄関には「文化センター」と書かれた巨大な看板がかけられていた。一方、その建物後面の裏口通門には「白冶金佐鎮將軍記念館」と記された看板が掲げられていた。関係者に聞くと、中国側当局の規制を受けたために、

「金佐鎮將軍記念館」と冠した正式な看板を正面玄関に掲げることができなかったとのことであった。筆者はさらに、山市鎮にある「山市中韓友誼広場（金佐鎮將軍殉国地）」を訪れたが、状況は「韓中友誼公園」とまったく同様であった。韓中の文化交流を促進するというのは名ばかりで、夏期に行われる韓国人団体旅行ツアーのためだけに利用されており、普段は門を閉ざして鍵をかけられた状態であった。

## おわりに

以上、本稿では、金佐鎮將軍記念事業会の活動を中心に、中国東北部における韓国系民族独立運動関連史跡の観光地化に関する問題について考察してきた。2000年以降、独島／竹島問題や従軍慰安婦問題をめぐって日本と韓国が鋭く対立する一方、中国と韓国は経済的な相互協力関係を強化していった。このような時代状況の中で、政治力と財力を有する金佐鎮將軍の後孫たちによって、反日ナショナリズムを訴えるための歴史拠点として青山里戦闘に関連する施設が中国内に建設されていった。人・モノ・資本が自由に行き交う「東アジアのグローバル化」という文脈の中で、植民地期に創出された韓国の抗日右派ナショナリズムが、現在の中国領土内に埋め込まれ再生産されているのである。

これら韓国系民族独立運動関連施設に対して、今のところ中国側は建設自体に対する規制などは行っていないようである。韓国系民族独立運動史跡が集中する中国東北部は、中国内で相対的に経済開発が遅れた辺境地域である。中国政府が、同地域における韓国系民族独立運動関連史跡の復元・整備を許可し、その観光地化を認めているのも、韓国資本の導入によって同地域の経済発展を図ろうとするためであると考えられる。また、この地域は中国朝鮮族が多数集住する地域である。中国政府は、韓国人対象の重要な観光地である同地での史跡開発に朝鮮族を積極的に関与させ、そのことにより東北



部の地域振興、特に観光産業の活性化を図ろうとしているものと思われる。

しかしながら、過剰とも言える韓国ナショナリズムが中国内に流入することに対して、中国政府は非常に神経を尖らせているようにも見受けられる。特に中国側の「東北工程」を契機に、2006年頃から中国と韓国の間では激しい歴史認識論争が発生している。これ以降、中国東北部における韓国系独立運動史跡は、中国側の「東北工程」に対抗する性格を持つものにもなっている。それらは本来、反日ナショナリズムを訴えるための歴史拠点として造られたものであったが、「東北工程」による中華ナショナリズムとの対決という状況の中で、対中国ナショナリズムとしての性格を帯び始めているのである。このような問題が集約されて出てきているのが、金佐鎮將軍記念事業会が推進する青山里戦闘関連史跡の整備である。

本稿で考察した通り、同事業会が建設した青山里戦闘関連施設では、金佐鎮將軍の活躍を中心とする韓国右派ナショナリズムが前面に打ち出されたものとなっている。特に同事業会が毎年行っている「青山里歴史大長征」ツアーでは、中国東北部にある抗日民族独立運動関連史跡のほか、高句麗や渤海の歴史遺跡をめぐるコースも含まれており、それらを巡る過程で、かつて朝鮮民族は朝鮮半島のみならず、中国東北部全域を領有したという所謂「大朝鮮主義史観」が鼓吹されてもいる（佐々 2009:306）。このような韓国側の国粋主義的な歴史認識が、朝鮮族社会に韓国資本が流れ込む過程で、朝鮮族同胞たちの間にも流入しているのである。もともと延辺朝鮮自治州は「間島」と呼ばれる地域であり、中国と朝鮮両国の境界線がまだ確定していなかった19世紀以来、この地をめぐる領有権紛争があったことを考えると、この問題は深刻である。周知の通り、中国は各地に民族独立問題を抱えており、とりわけ新疆ウイグル・チベット・内モンゴルなどの分離・独立の動きに対して厳しい措置をとっている。現在、朝鮮半島は南北に分断され、北朝鮮というクッションが存在するが、もし朝鮮半島に強力な統一国家が出現すれば、国境を接する「飛び地」の延辺朝鮮自治州は「統一朝鮮」との関係を一層深め

ることが予想される（玄武岩 2013：233, 242）。このような朝鮮族の越境的なエスニック・アイデンティティの活性化は、民族問題を抱える中国政府にとって大きな不安要素になりかねない。今後、中国内に建設された韓国系民族独立運動関連施設の中で韓国ナショナリズムがさらに高揚し、「間島」の領有権問題にまで言及されるならば、中国側はこれまでの政策を転換する可能性もあるだろう。実際、中国政府は一定の警戒心をもって韓国系民族独立運動関連施設の動向を注視しているよううかがわれる。中国側は、朝鮮半島情勢を安定化させ中韓間の友好関係を維持するために、既存の韓国系民族独立運動関連施設を引き続き維持・管理しつつも、韓国側のナショナリスティックな歴史認識の唱導に対して牽制を加えつつ、その規模を徐々に縮小させるべく規制する方向に向かうかもしれない。

一方、韓国国内においても、大韓民国が建国される過程で創出された国家主義的な右派ナショナリズムによる歴史認識の在り方を批判しようとする動きが高まっている。特に、金佐鎮將軍記念事業会を支えている金乙東・宋一国親子による愛国主義的な活動も、韓国国民から批判を浴び始めている点に注目したい。金乙東は、2016年4月に行われた第20代国会議員選挙においてソウル市松坡区丙区で出馬し、野党の「共に民主党」ナム・インスン候補に敗れ落選した。与党セヌリ党の歴史教科書改正特別委員会委員長をつとめながら韓国史教科書の国定化を主導したことが国民の反発を買ったのである<sup>21)</sup>。この総選挙において、宋一国は母・金乙東の全面的な選挙応援に入ったが、愛国精神を売り物にし、息子を前面に打ち立てる戦略も反発を買った。さらにまた、歴史認識問題において金乙東と共闘した朴槿恵大統領自身が、親友・崔順実の国政介入事件により国会で弾劾訴追された。そして2017年3月に憲法裁判所により朴槿恵大統領の罷免を認める判決が下された。このような状況下で、朴槿恵大統領が決定した歴史教科書の国定化も先行き不透明な状況となっている<sup>22)</sup>。

本稿で考察した通り、金佐鎮將軍記念事業会が推進する「青山里歴史大長

征」プログラムは、中国東北部を舞台として、韓国ナショナリズムを消費するために行われる団体観光ツアーとなっている。このツアーに参加することによって、「青山里戦闘は抗日独立戦争史上、最大の戦果をあげた戦いである」という右派ナショナリズムの過剰な歴史認識が、愛国主義の名の下に韓国の若者たちに植え付けられる。その結果として、日本ばかりではなく、中国との間の文化摩擦をより深めるものとなっている。国際化が進んだ現代社会において求められる若者像とは、偏狭なナショナリズムを克服し、多様な価値観を認め合うことによって国際紛争を解決することのできる能力を持つ者たちではないだろうか。その意味で、「青山里歴史大長征」プログラムのような韓国ナショナリズムだけを高揚させようとする観光事業は、将来、韓国の若者たちに大きな負の遺産となりかねない危険性を孕んでいると言えるだろう。朴槿恵政権に「No！」を突きつけた韓国の若者たちは、今やこのことを十分に認識しているのではないだろうか。

## 注

- 1) 延辺朝鮮自治州内にある、明東学校（1908年に金躍淵が設立した明東義塾を前身として1909年に設立された民族学校で間島独立運動の拠点となった）や、植民地時代に日本へ留学して1944年に治安維持法で逮捕され獄中死した詩人・尹東柱の生家などが、代表的な観光地となっている。
- 2) 以下、「東北工程」の概要に関しては、徐吉洙「中華人民共和国 東北工程五年の成果と展望」（社団法人高句麗研究会2007：13）を参照した。
- 3) 中国東北部で展開された抗日独立運動に関して、韓国と北朝鮮では異なる評価を下している。韓国側では、1920年4月に上海で創設された大韓民国臨時政府やそれに連なる右派民族主義勢力が展開した抗日闘争を民族独立運動の主流と見なしている。一方、北朝鮮側では、1930年代以降に金日成が活躍した左派系統の間島バルチザン闘争を抗日闘争の中心と見なしている。本稿では、紙幅の制約上、韓国側で評価されている右派民族主義系列の抗日独立運動を主な考察対象とする。
- 4) 以下、金斗漢の生涯については、韓洪九『『將軍の息子』神話を背負った悪役ヒーロー』（韓洪九2003：80）を参照した。
- 5) 三星財閥系の韓国肥料は工場建築資材を輸入するとしてサッカリンの原料を密輸し、その利益を共和党の政治資金として提供した疑惑をもたれた。金斗漢は、議会議場に出て、この内閣を糾弾する国民のサッカリンだと言いながら、「閣僚全員に味見させな

きゃならねえ、糞でも食らえ、この犬畜生めが！」と叫んで糞尿を浴びせかけた（韓洪九 2003：89-90）。

- 6) 金斗漢の破天荒な生涯は、映画やドラマの格好の素材になった。特に1990年から92年にかけて、林権澤監督による『將軍の息子』（三部作）が制作され、人気を博した。また、俠客時代の金斗漢を描いたテレビドラマ『野人時代』（2002年SBS制作）も放映されている。これらの映画やドラマでは、金斗漢を「抗日」の英雄として描いており、歴史というよりは一つの神話となっている（韓洪九 2003：79）。
- 7) 1962年に朴正熙率いる国家再建最高会議は、金佐鎮に建国勲章大韓民国章を授与した。また、1966年第二次教育課程により制作された中学校歴史教科書から、青山里戦闘に関する内容が歴史教科書に盛り込まれた（辛珠柏 2011：95, 104）。
- 8) 例えば、小学校6年生の社会科教科書副読本『社会科探究』の第6章には「金佐鎮將軍と青山里大捷」という項目が設けられ、「金佐鎮將軍と李範奭將軍が率いる独立軍は…この戦闘で大きな勝利を収めた」と記し、金佐鎮將軍の肖像画と青山里戦闘の様子を描いた絵画を掲載している（三橋 2007：266）。
- 9) 青山里戦闘に関する現地調査として、朴煥（2012：379-384）、한상수『独立運動遺蹟地聞見録』（文音社、1998年、257-290頁）、金春善「발로 쓴 青山里戰爭의 歷史的 眞實」（『歴史批評』通巻第52号、歴史批評社、2000年）、박도『抗日遺跡踏査記』（논빛、2006年、90-104頁）、노성태（2010：177-202）などがある。
- 10) 伊藤博文は、松本氏の高祖父にあたる（松本氏の母・悦子は伊藤博文の三女・朝子の孫）。松本氏の父は、防衛庁長官を務めた元衆議院議員の松本十郎氏である。
- 11) 「朴槿恵教科書」国定化実施に市民全般に反発拡散『ハンギョレ（日本語版）』2015年10月12日付（<http://japan.hani.co.kr/arti/politics/22182.html>、2016年12月5日閲覧）。
- 12) 朴槿恵大統領は、2013年8月13日慶尚南道巨濟市の大宇造船所で開かれた1800トン級潜水艦「金佐鎮」の進水式に出席し、テープカットを行った。韓国海軍史上、大統領が進水式テープカットを行ったのは初めてのことである。この時、朴槿恵大統領は記念演説で、青山里戦闘に言及した後、独島守護の意志を確認した。この進水式には、金乙東と息子の宋一国も参席している。「朴大統領、『金佐鎮』進水式で独島・NLL死守を明言」『中央日報（日本語版）』2013年8月14日付（<http://japanese.joins.com/article/016/175016.html?servcode=200&sectcode=200>、2016年12月5日閲覧）。
- 13) 「ソン・イルグク、山口副大臣の『日本に来られない』発言に『大韓、民国、万歳！』」『中央日報（日本語版）』2012年8月25日付（<http://japanese.joins.com/article/216/158216.html>、2016年12月5日閲覧）。この独島イベントに参加したおかげで1年間仕事が入ってこなかったが、その間、彼は子育てに専念した。その後、宋一国と3つ子たちは、2014年にKBSテレビのバラエティー番組『ハッピーサンデー-スーパーマンが帰ってきた』に出演し、現在も「国民の3つ子」として人気を博している。

- 14) 2005年10月に宋一国と金乙東は、韓中友誼公園の開園式のために中国黒龍江省海林市を訪問した。中国から韓国に戻って来るとすぐ、宋一国に朱蒙役キャストイングのオファーが入って来た。この偶然の一致に、金乙東は「鳥肌がたった」と述べている。そして、「もし視聴率が高く上がれば…韓国と中国との間で歴史論争となっている高句麗歴史に対して国民的関心を巻き起こすことができる…それだけでも十分に価値がある」と考え、宋一国にドラマ出演を勧めたと述べている(金乙東2011:134-5)。
- 15) 2010年に行なわれた中国の第6次全国人口普遍調査で、朝鮮族の人口は183万929人と集計された。また、人口数の多い居住地域を見ると、1位が吉林省の104万167人(56.81%)、2位が黒龍江省の32万7806人(17.9%)、3位が遼寧省の23万9537人(13.08%)、4位が山東省の6万1556人(3.36%)となっている。「朝鮮族人口、30年後は半分に減る可能性も」『黒龍江新聞』2012年10月17日付、朝鮮族ネット(<http://www.searchnavi.com/~hp/chosenzoku/news12/121017.htm>、2016年12月22日閲覧)。
- 16) 延辺朝鮮族自治州においてもこの現象は顕著に見られる。人口移動の結果、人材流出、朝鮮族学校の統廃合、朝鮮族村の過疎化、家庭崩壊などの社会問題が浮き彫りになっており、延辺成立当初(1952年)68%を占めていた朝鮮族の比率は、2011年現在38%を下回り、現象の一途をたどっている(権香淑2011:13)。
- 17) 同事業会が2006年夏に行った「青山里歴史大長征」ツアーの際、一行はこの朝鮮族実験小学校を訪問した。その時の様子を次のように記している。「小学校の図書室は、私の家の本棚よりも劣っていた。10余坪の空間に置かれた本を見ると心が痛んだ。…トンギナム校長(45才)は『最近、数年の間に学生数が200名あまり減り、現在380名にすぎない』と言いながら、『漢族の学校に送るのもよいが、朝鮮族の学校を活性化させるのがより緊急である』と言った」(召魯亨2006:42)。このことから、朝鮮族学校に通う生徒の数が激減しており、同事業会はその支援に乗り出そうとしていたことがわかる。
- 18) 金佐鎮將軍記念事業会ホームページの「歴史大長征紹介」欄を参照(URL:[http://www.kimjwajin.org/history/history\\_14.php](http://www.kimjwajin.org/history/history_14.php)、2016年12月5日閲覧)
- 19) 以上、金佐鎮將軍記念事業会のホームページ「歴史大長征」欄の「青山里精神とは？」と「成果及び効果」を参照([http://www.kimjwajin.org/history/history\\_effect.php](http://www.kimjwajin.org/history/history_effect.php)、2016年12月5日閲覧)。
- 20) キム・ジャンフン(2012年8月15日に宋一国と共に独島水泳リレー・イベントに参加した歌手)は、2012年に行われた「青山里歴史大長征」ツアーに途中から合流し、7月8日に延辺の一松亭で、宋一国をはじめ64名の大学生らと愛国歌と独立軍歌3曲を歌おうとした。その途中で、中国公安に強い制止を受けて、結局中断された。キム・ジャンフン側は「中国公安を直接訪れ、韓中修交20周年を迎え両国間の友好と抗日独立運動の継承の意味で愛国歌などを歌うと説明したが受け入れられなかった」と説明した。なお、前日には、白頭山で太極旗をはためかそうとしたところ中国側に奪わ

れたと報じられている。「歌手キム・ジャンフン、中国北満州で愛国歌歌おうとして公安に制止」『中央日報(日本語版)』2012年7月9日付(<http://japanese.joins.com/article/188/155188.html?servcode=700&sectcode=720>、2016年12月5日閲覧)。

- 21) 「2016 総選挙市民ネットワーク」等の市民団体が落選運動を繰り広げ、金乙東候補を「第20代総選挙ソウル地域ワースト7」の名簿に入れた。特に韓国史教科書国定化阻止ネットワークからは、「歴史教科書国定化等『歴史犯罪』関連20代総選挙集中審判対象者5人」に選ばれた(『女性新聞』2016年4月9日付、<http://www.womennews.co.kr/news/92837>、2016年12月5日閲覧)。
- 22) 「国定歴史教科書、首都圏などの中学で注文取り消し相次ぐ」『聯合ニュース』2016年12月21日付(<http://japanese.yonhapnews.co.kr/pgm/9810000000.html?cid=AJP20161221004600882>、2016年12月23日閲覧)。

### <参考文献>

- 金乙東、2011『김을동과 세 남자 이야기』순정아이북스
- 金敬泰、1992「第一次大戦後『満州』東北亞国際関係－「青山里戦闘」国際的環境主体的条件」『韓國文化研究院論叢』第60巻第1号
- 김중해、2010「金乙東議員의 할아버지－만주벌 호랑이 金佐鎮將軍」『国会 25時』
- 김영숙、2007「独立軍歌 青山里 자락에 메아리되어－‘청년 햇불대원’抗日遺蹟地 踏査」『国防지널』第404号
- 김용호、2006「亡国の 설움 되새기며 独立軍 녀 追慕－청년 햇불 青山里 歴史大長征」『国防지널』第393号
- 權香淑、2011『移動する朝鮮族』彩流社
- 玄武岩、2013『コリアン・ネットワーク』北海道大学出版会
- 佐々木春隆、2012『(新装版) 韓国独立運動の研究』国書刊行会
- 佐々充昭、2009『「韓流」高句麗ドラマに魅せる『大朝鮮主義史観』－ドラマ『太王四神記』を中心に』木村一信・崔在喆編『韓流百年の日本語文学』人文書院
- 佐々充昭、2012「朝鮮近代における白頭山神聖觀念の形成」『韓国朝鮮の文化と社会』第11号、風響社
- 佐々充昭、2017「北路軍政署の創設と大倥教－総裁・徐一の活動を中心に」『立命館国際地域研究』第45号
- 社団法人高句麗研究会編、2007『高句麗研究』第29輯、学研文化社
- 辛珠柏、2011「韓国現代史에서 青山里戰闘에 관한 記憶의 流動－回顧録·伝記와 歴史教科書를 中心으로」『韓国近現代史研究』第57輯
- 愼鏞厦、1982『韓國民族獨立運動史研究』一潮閣
- 孫春日、2009『中国朝鮮族移民史』北京・中華書局
- 노성태、2010『滿州·沿海州踏査記：獨立의 記憶을 걷다』한울

- 韓洪九、2003『韓洪九の韓国現代史』平凡社
- 朴烜、2010『金佐鎮評伝』선인
- 朴烜、2012『(改訂版) 満州地域韓人遺蹟踏査記』国学資料院
- 박영실、2003「解放以後 李範奭의 思想政治와 活動」『歴史와 社会』第31輯
- 황의천、2011「金佐鎮將軍墓所考察」『保寧文化』第20輯、保寧文化研究会
- 花井みわ、2011「中国朝鮮族の人口移動と教育－1990年以後の延辺朝鮮族自治州を中心として」『早稲田社会科学総合研究』第11巻第3号
- 真鍋祐子、2009「アイデンティティ・ポリティクスとしてのツーリズム－中国東北部における韓国のパッケージ・ツアーの事例から」『文化人類学』第74巻第1号
- 三橋広夫訳、2007『韓国の小学校歴史教科書』明石書店
- 李成雨、2011『金佐鎮：満州 抗日武装闘争의 神話』歴史空間
- 李盛煥、1991『近代東アジアの政治力学－間島をめぐる日中朝関係の史的展開』錦正社